徳島新聞　令和元年７月26日（金）

メタボ改善指導 実用化

血液採取し生活習慣病予測

徳大病院対策センター

9月から ハッピーでサービス

徳島大学病院糖尿病対策センターが、脂肪細胞から出るホルモンの血中濃度から健康な人が生活習慣病になる将来リスクを予測し、運動指導によりメタボリック症候群を改善する手法を実用化した。フィットネスクラブを運営するハッピー（徳島市）が9月からサービスを始め、社員の健康増進を図る「健康経営」などに取り組む企業や団体への普及を目指す。

船木真理センター長の研究グループなどが2008年からこれまでに、約1400人を対象に生活習慣の聞き取りや身体測定、血液検査などを実施。その結果、脂肪細胞から分泌され、肝臓や筋肉で脂肪を燃焼させる働きがあるホルモン「アディポネクチン」の量が血液1㍑当たり男性で6・2㌎以下、女性で6・5㌎以下だと既にメタボになっているか、4～5年以内にメタボになる恐れが高いことが分かった。

徳島文理大や神戸市の検査機器メーカーの協力で、指からキットを使って採取した微量の血液をろ紙に吸わせて検査機関に送り、アディポネクチンの量を測る手法を確立。採血はハッピーやサービスを申し込んだ事業所などでできる。船木センター長が代表取締役を務める徳島大学発ベンチャー・メカノジェニック（千葉市）が測定を担う。結果は2～3日程度で判明する。費用は1回7千円。

検査でアディポネクチンの数値が低かった人への支援として、ハッピーと提携し、新たに運動指導プログラムを開発。筋肉トレーニング、ウオーキングなどを中心に1人月10回程度のプログラムを行い、3～6カ月での改善を目指す。利用料は月1万円前後の予定。

まず法人を対象に社員の健康づくりとして利用を募る。初年度の利用目標は千人。既に建設機械卸販売会社などが申し込んでいるという。将来的には個人からも受け付ける。船木センター長は「社員の健康増進は職場の活力や生産性の向上にもつながる。ぜひ利用してほしい」と話している。

（河野大樹）